

丸山眞男に出会う―その人・思想・学問―

松 沢 弘 陽

二〇〇五年度の「比較思想B」は表記のような題で、丸山眞男を主題としました。丸山眞男記念比較思想研究センターの課題は、丸山に限らず、広い比較思想の研究であるとうかがっていますが、丸山について知ること自体が意味の大きいことですし、丸山を「道具」として思想の多様な問題を理解することが促される。丸山はそのような思想家だと考えたからです。

授業は、シラバスに紹介した予定から、かなりずれこみました。実行出来た各章の構成は、次の通りです。

- 第一章 はじめに
- 第二章 家族のかたち―時代の影
- 第三章 学校という社会、学校と社会
- 第四章 全体戦争と総動員体制のもとで―時代経験と学問
- 第五章 敗戦と占領に直面して―天皇制の批判

第六章 民主革命から冷戦体制批判へ

第七章 丸山における人間・知・社会

第八章 政治と政治学

第九章 最初の日本政治思想史通史―政治と政治を超えるものとの緊張

第六章まで六回の予定が八回になり、第七章は一回の予定が二回に、第八、九章は、それぞれ二章と三章の予定を一つの章に圧縮しました。全体が大きくは二部構成で、第二―六章で幼少年期から一九七〇年初めにいたる時代経験と時代への働らきかけの跡を、通時的にたどり、第七章以下は、第七章を前半と後半をつなぐかなめ、後半への序論として、丸山にとつての政治と政治学および日本政治思想史という学問の骨格を、いわば共時的にとらえるという展開です。

私がこの授業全体を通して注目したのは、自分自身の経験（受け身

の受苦から、能動的な行為までを含む)を「抽象化」(丸山の用語)することを通して、理論を紡ぎ出すという、丸山が力説する「知」論です。私には、丸山論が数を増すにもかかわらず、彼の思想の根幹をなす、この「知」論は、またそれにふさわしい注目を受けているように、どうも思えません。このような「知」論は、一方では、一般理論の学習に有能でも、それを自己の経験と結びつけることに弱い、日本の学校教育の優等生文化、他方では、自己の「体験」にとらわれるナルシズム、の両者に対する鋭い批判でした。丸山は、このような「知」の形成を、学問を本職にする者、学問の世界のアマチュアの境界を超えて、誰にも通じることがらとして強調しました。

私はこのような丸山の「知」論を、丸山自身の「知」の形成過程に応用したいと考えました。戦後に大きく開花した丸山の思想と学問の核心が、家庭や学校や社会(留置場・軍隊・結核病棟といった限界的な場を含む)での経験に深く根ざしていること、彼の個人的経験が同時代の世界を映して出していることに注目しました。

このようなアプローチは、それぞれに社会経験を重ねて来られ、とりわけ現在の世界に危機を感じていられる、学外からの受講者(最年長の方は、丸山の敗戦直後の講義を聞かれたよし)には、うったえたようです。逆に丸山という名を初めて聞く、「バーチャル・リアリティ」が肥大する反面で自分の固有の経験が稀薄になっている、東京女子大学の学生の方々には届き難かったようです。しかし、彼女たちが、『「文明論之概略」を読む』の中で、丸山が現代の「情報社会」

の病理を鮮かに抉った一節に、一様に共感を示し、その中の自我の私たちを問うたところに、私は丸山と、彼を遙かに離れた若い世代との「ラポール」の一つの可能性を見る思いがしました。

最後に、この授業を大小にわたってサポートして下さった教育研究支援課の田中理恵さん、毎回出席して、モラル・サポートで励まして下さった、黒沢文貴・雨田英一両先生に、心からの感謝を申しのべます。

丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業のご案内

当センターでは 2005 年度から、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる科目を、新たに設置いたします。「比較思想 A」「比較思想 B」「総合講座・比較思想 A」「総合講座・比較思想 B」の各科目（半期完結）ですが、2005 年度はそのうちから「比較思想 A」「比較思想 B」を開講し、これを学部学生とともに学外の方々にも公開することになりました。

2005 年度の前期は、「『開国』の比較思想史」（「比較思想 A」）、後期は「丸山眞男に出会う ―その人・思想・学問―」（「比較思想 B」）を開講いたします。下記の要領にて受講者を募集いたしますので、ご案内いたします。

期 間 2005 年 4 月 8 日 ～ 2005 年 7 月 15 日（前期）

2005 年 9 月 30 日 ～ 2006 年 1 月 20 日（後期）

時 間 毎週 金曜日 2 時限目 10:55～12:25

会 場 東京女子大学 善福寺キャンパス

対 象 原則として 18 歳以上の男女で、1 年間継続して授業に出席できる方
（但し授業自体は前期・後期に分かれています）

定 員 30 名

受講料 20,000 円

テキスト代等は含みません。なお、一度納入された費用は返却いたしませんので、ご了承ください。

授業予定

前期 **「開国」の比較思想史** 講師：平石 直昭（東京大学教授、丸山眞男文庫顧問）

この講義では 19 世紀半ばにおける「開国」が日本に与えた知的な衝撃と遺産について考察する。

- ① 東アジアにおける国際秩序の再編、② 異質な文明に出会った日本における同一性保持の模索、③ 日本が旧体制の改革に成功しえた諸要因、④ 20 世紀初頭までは成功したように見えた近代化が最後は敗戦という結果に終わった諸原因、これらについて比較思想の観点から検討する。丸山眞男その他の学説の紹介をかねる。

後期 **丸山眞男に出会う ―その人・思想・学問―**

講師：松沢 弘陽（前国際基督教大学教授、丸山眞男文庫顧問）

丸山眞男は、海外にも広く知られ尊敬されたすぐれた政治学者であり、思想史家だった。

しかしその丸山は、一国の学問に活力を与えられるのは、学問を職業としない、学問のアマチュアの学問活動だと説いた。また政治を理解するには、政治を職にしない政治のアマチュアの自我のあり方から出発しなければならないと力説した。学問も政治も、人間だれでもが、自分の問題を自分で解決するために、考え行動することが出発点だと考えたのである。本講では、こういう観点から丸山の政治と思想についての学問を考えてみたい。

（本後期科目は、「株式会社岩波書店寄附講座」に指定されています）

- 【申込方法】 下記の申込用紙にご記入のうえ、3月18日(金)までに教育研究支援課宛にご返送ください(必着)。
- 【結果通知】 3月下旬に結果通知はがきをお送りいたします。申し込み多数の場合は、抽選の上受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。
- 【受講手続】 受講を認められた方は、20,000円の郵便為替を郵便局でお買い求めのうえ、4月5日(火)までに教育研究支援課宛にご郵送下さい。
- なお、受講証は授業初日にお渡しいたしますので、結果通知はがきを当日会場にお持ちください。

請求・送付先： 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
 東京女子大学 教育研究支援課「公開授業」係
 TEL: 03-5382-6454
 月～金・9時～17時(11:25～12:25を除く)

【ホームページ】 <http://office.twcu.ac.jp/support/index.html>

追記：授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おき下さい。

-----キリトリ-----

2005年度 丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業 受講申込書

ふりがな 氏名		年齢		性別	男・女
住所	〒				
電話番号					
受講の動機					

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター